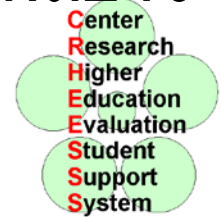


# 週刊センターニュース No.249



第249号(2009年3月9日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## ○●○ 共同学習会のご案内 ○●○

**第216回** 日時: 3月16日(月) 10時30分—12時

場所: 角間キャンパス 総合教育1号館2階会議室

企画: 青野 透 (教育企画会議就職支援部会長)

テーマ「**文系**学生・院生に対する就職支援を考える—就職支援力を高めるために1—」

報告者 三上隆次氏 (毎日コミュニケーションズ北陸支社長), 望月一志氏 (同 東京本社企画広報部)

内容: 教育企画会議就職支援部会では、現在の経済状況等を背景に、大学として、また個々の教職員が学生の就職活動をどのように支援していくべきか、学内外からの情報をもとに、継続的に議論の場を設けることとした。シリーズ1回目は、文系学生・院生の就職支援をテーマとする。全国での採用活動・就職活動、地域での採用活動・就職活動についてお詳しい二人の方にご報告いただく。本学は今年度2月の業界企業研究会に加えて、学生の要望に基づき、初めて12月に「OB・OGによる業界・企業研究会」を開催しており、その参加学生・企業アンケート結果の分析結果報告も踏まえて、報告後の質疑応答を通じ、就職支援力向上のために何をなすべきか、検討する。

**第217回** 日時: 3月16日(月) 13時—14時30分

場所: 角間キャンパス 自然科学棟1号館1階 102講義室

企画: 青野 透 (教育企画会議就職支援部会長)

テーマ「**理系**学生・院生に対する就職支援を考える—就職支援力を高めるために2—」

報告者 望月一志氏 (毎日コミュニケーションズ東京本社企画広報部), 三上隆次氏 (同 北陸支社長)

内容: 教育企画会議就職支援部会では、現在の経済状況等を背景に、大学として、また個々の教職員が学生の就職活動をどのように支援していくべきか、学内外からの情報をもとに、継続的に議論の場を設けることとした。シリーズ2回目は、理系学生・院生の就職支援をテーマとする。全国での採用活動・就職活動、地域での採用活動・就職活動についてお詳しい二人の方にご報告いただく。本学は今年度2月の業界企業研究会に加えて、学生の要望に基づき、初めて12月に「OB・OGによる業界・企業研究会」を開催しており、その参加学生・企業アンケート結果の分析結果報告も踏まえて、報告後の質疑応答を通じ、就職支援力向上のために何をなすべきか、検討する。

**第218回** 日時: 3月18日(水) 14時—15時30分

会場: 角間キャンパス総合教育1号館2階会議室

企画: 堀井祐介 (大学教育開発・支援センター)

テーマ: 「金沢大学におけるICTを活用した組織的FD活動」

報告者: 堀井祐介, 青野透, 西山宣昭, 佐藤正英, 鎌田康裕, 末本哲雄, 森洋寛 (以上、FD・ICT教育推進室)

内容: 総合メディア基盤センター、大学教育開発・支援センター、学生部が連携して運営するFD・ICT教育推進室の活動について、3月21日に京都大学で開催される第15回大学教育研究フォーラムのラウンドテーブルにおいて報告を行う予定である。今回は、その報告に先立ち学内にて報告を行い、今後のFD・ICT教育推進室の役割について参加者とともに議論したい。

**※3月30日(月)31日(火)両日に、学外から講師をお呼びして集中共同学習会を開催します。次の臨時号で詳細をお知らせします。**

## ○●○ 内部質保証システム整備について ○●○

学校教育法改正により、平成16年度から認証評価制度が導入され、「大学は、その教育研究水準の向上に資するため、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備(教育研究等)の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表(自己評価等)するものとする。」「大学は、前項の自己評価等に加え、当該大学の教育研究等の総合的な状況について、7年以内ごとに、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価(認証評価)を受けるものとする。」という義務が大学に課されることとなった。その目的は、「評価結果が公表されることにより、大学等が社会による評価を受ける」こと、および「評価結果を踏まえて大学等が自ら改善を図る」ことである。

制度導入からほぼ5年が経過し、大学、認証評価機関の現場においては、法令に従い認証評価活動が進められてきて

いるが、具体的な作業過程において、文部科学省、認証評価機関にとって頭の痛い問題が出てきた。それは、「自己点検評価報告書」の信頼性の問題である。認証評価機関により差異はあるものの、認証評価活動は、基本的には、大学等が作成、提出する「自己点検評価報告書」に基づき進められる。しかし、この「自己点検評価報告書」への信頼性が十分担保されていない事例が多く見られ、結果として、事実確認や責任体制確認に余計な時間が取られ、認証評価活動が円滑に進まず、評価結果に悪影響が出かねない事態となっている。このことは、昨年12月24日に中央教育審議会から出された「学士課程教育の構築に向けて（答申）第4章 公的及び自主的な質保証の仕組みの強化 3 自己点検・評価（1）現状と課題」において、「大学においても、自己点検・評価の意義に対する理解が薄く、作業が形式的なものにとどまり、PDCAサイクルを稼働させるに至っていない場合もあると指摘されている。」と述べられていることからわかる。

そこで、文部科学省は、大学評価研究委託事業として、財団法人大学基準協会に、国内外大学の内部質保証システムの実態調査を委託した。この事業では、「わが国の大学の自己点検・評価の現状を把握するなど内部質保証体制の実態を調査する。また、諸外国においても大学内に構築される内部質保証体制の実態調査を行うとともに、各大学の内部質保証体制を評価機関がどのような観点から評価しているのか等の調査も行う。」こととなっている。海外調査としては、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ドイツの評価機関および大学への訪問調査が実施された。この委託事業の結果を受けて、文部科学省が、今後、各高等教育機関に対して、さらなる内部質保証体制の整備を求めてくる可能性がどの程度あるかはわからないが、少なくとも「自己点検評価報告書」の信頼性を高めることは求められるだろう。筆者は、この委託事業関連でオーストラリア現地訪問調査に参加した。以下に、その際に得た情報をもとに、モナッシュ大学における質保証関連活動、特に客観的データによる質保証体制について簡単に紹介させていただく。

モナッシュ大学での内部質保証体制は、Center for Higher Education Quality(CHEQ)を中心として進められている<sup>1</sup>。内部質保証の根拠となるのは、以下の3つの調査である。これら3つについては、実施した翌年に該当の部局に改善状況を問い合わせる形で質保証、質向上につなげている。

- ・MEQ (Monash Experience Questionnaire)<sup>2</sup>  
2年に1回実施（奇数年、前回は2007年）、academicな内容（学習、教育中心）
- ・MSEQ (Monash Support Experience Questionnaire)<sup>3</sup>  
2年に1回実施（偶数年、前回は2008年）、administrative（管理、運営中心）
- ・UE (Units Evaluation)<sup>4</sup> 毎年実施、Unitとは科目(subject)をさす

このほかに、Monquest (Monash Questionnaire Series on Teaching)<sup>5</sup>という調査も実施されている。これは、教育、指導方法について教員が個別に行う調査であり、教員の昇進等に反映されるものである。これらの調査データは量的にも非常に膨大であり、内容的にも大学にとって非常に重要であると認識されている。これらのデータをもとに、客観的に点検活動が実施され、学内での研究、教育、体制に関するそれぞれのポリシーと照らし合わせて評価されている。また、これらモナッシュ大学単独での調査に加えて、毎年Course Experience Questionnaire (CEQ)<sup>6</sup>、Graduate Destination Survey (GDS)<sup>7</sup>が連邦レベルで卒業生に対して行われている。これらの結果もWebで公開されており、社会に対しての証明と位置づけられている。

金沢大学においても、現在、法人評価対応、次の機関別認証評価への準備など、担当副学長・理事のもと評価室を中心に、絶えず、各種自己点検評価活動が進められている。また、自己点検評価活動の前提となる次期中期計画策定作業も進められている。評価室の活動は、かなり綿密に、しっかりと行われているが、各種データ、根拠資料収集においては、当該部局任せになってしまうケースもあり、また、金沢大学全体の活動に関する調査、データ収集作業を行うには、評価室職員の数は十分とは言えない。各種客観的データを常に収集し、公開できる体制を整備することは、人手と時間のかかる作業ではあるが、「自己点検評価報告書」のさらなる信頼性向上を求められた際に慌てないために必要ではないだろうか。

（文責 評価システム研究部門 堀井祐介）

<sup>1</sup> <http://www.adm.monash.edu.au/cheq/>

<sup>2</sup> <http://www.adm.monash.edu.au/cheq/evaluations/other-surveys/meq/index.html>

<sup>3</sup> <http://www.adm.monash.edu.au/cheq/evaluations/other-surveys/mseq/index.html>

<sup>4</sup> <http://www.adm.monash.edu.au/cheq/evaluations/unit-evaluations/index.html>

<sup>5</sup> <http://www.adm.monash.edu.au/cheq/evaluations/monquest/index.html>

<sup>6</sup> <http://www.adm.monash.edu.au/cheq/evaluations/other-surveys/ceq/index.html>

<sup>7</sup> [http://www.adm.monash.edu.au/cheq/evaluations/other-surveys/research-eval/index.html#Graduate%20Destination%20Survey%20\(GDS\)](http://www.adm.monash.edu.au/cheq/evaluations/other-surveys/research-eval/index.html#Graduate%20Destination%20Survey%20(GDS))